注：この技術提案書は、設計者選定において提案されたものであり、そのまま設計案となるものではありません。

姶良・加治木・蒲生 統合のシンボル　ネットワーク都市「姶良」の要 ▶「まち」とつながり、「ひと」が集まり、「風景」とつながる

設計コンセプト、各課題に対する基本的な考え方、設計上特に配慮する事項

姶良は、地勢的には薩摩半島と大隅半島の結束点であり、各方面へと繋がる古くからの交通の要衝でもあります。また、姶良・加治木・蒲生は、別府川の水運によって繋がってきたという歴史を持っています。この様に姶良の特徴は「人・モノ・情報」が行き交うネットワークにあると考えます。また景観的には、姶良台地から蘭牟田池外輪山に連なる山並み、桜島を焦点とする雄大な景観、錦江湾舟運における山当てとしての五老峰などが特徴です。私たちはその様な姶良のまちの成り立ちを踏まえた庁舎を追求したいと考えます。

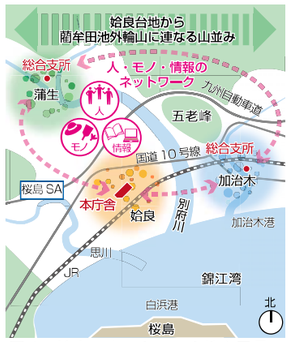

図 1：姶良のネットワーク性と風景

図 2：「まち」とつながる庁舎

1「まち」とつながる

利便性が高い駐車場・駐輪場、コミュニティバスやタクシーの車寄せ、路線バスのバス停を持つなど様々な交通手段でアクセスしやすい庁舎とします。そして、2 号館・5 号館・中央図書館などの周辺施設とスムーズに連携できる配置計画等により、本庁舎・駐車場・2 号館から成る本庁舎エリア全体の拠点性を高めることとします。また、加治木・蒲生の両総合支所と ICT 等を活用した連携を提案します。

2「ひと」が集まる

広く市民に開かれ、市民が自由に集まることができるパブリックスペースとして「くすのき広場＋交流館＋縁側ロビー」を整備します。これらは立体的街路の様な連絡デッキにより立体駐車場、2 号館とも繋がり、1・2 階の内外で市民の活動が繰り広げられる構成とします。

3「風景」とつながる

「桜島テラス」・展望回廊、「桜島ロビー」を設けるなど、姶良台地から蘭牟田池外輪山に連なる山並み～五老峰・別府川～錦江湾～桜島と全方向への眺望に優れた庁舎とします。

図 3：「桜島テラス」から見える夕景のイメージ

図 5：ネットワーク都市の三要素

図 4：南西交差点からの庁舎イメージパース

業務の取組体制、設計チームの特徴

総合事務所と地元事務所の協働体制

九州をはじめ多くの庁舎実績を有する総合事務所の管理技術者・各担当主任技術者を中心に設計チームを構成し、基本設計から実施設計まで一貫したプロジェクト運営を行います。各専門分野については、全社的な支援体制を整えます。また、地元設計事務所との緊密な協働関係により、迅速な対応を行うとともに、地域性を十分に取入れた設計を行います。

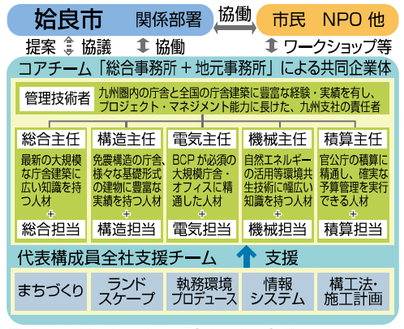

図 6：取り組み体制・設計チームの特徴

「市民力」を取り入れた設計プロセス

本プロジェクトを市民と協働するまちづくりを深めるモデルプロジェクトだと捉え、市民ワークショップやシンポジウムの開催等「開かれた設計プロセス」により業務に取り組みます。取り組みにあたっては、古くからの「地縁的繋がり」と知識社会の「知縁的繋がり」の力を生かした多面的な「市民力」を取り入れ、市民の満足度が高い計画を行います。

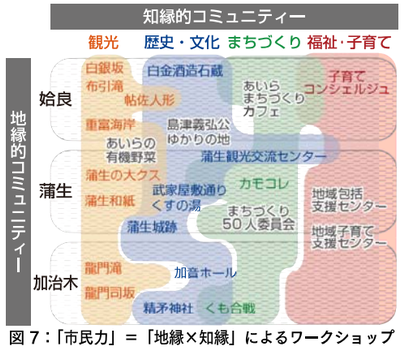

図 7：「市民力」＝「地縁×知縁」によるワークショップ

庁内ワーキング等を的確に反映

職員が働きやすい環境を実現するために、窓口や執務室・会議室、防災や情報、セキュリティ等に係る庁内ワーキングの内容を的確に反映します。

図 8：庁舎設計におけるワークショップ等の取組み実績

設計工程を含む事業全体のロードマップ等

フロントローディングによる業務推進

計画初期に徹底した課題の抽出を行い総合的に解決していくフロントローディングの手法を採用することで、効率的な業務推進を行います。

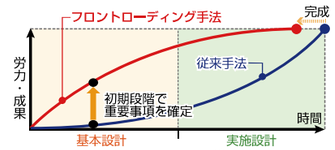

図 9：フロントローディング手法

「ミニマムコストモデル」をベースとするコスト管理

基本設計の初期段階から工種ごとの予算の割振りと、基本仕様・付加仕様の積上げという 2 つの手法により概算を繰り返し、コストと仕様・性能のバランスがとれた設計を行います。

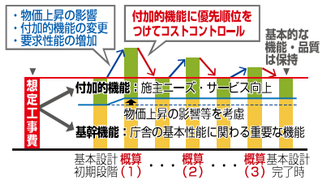

図 10：確実なコストコントロール

入札不調や工期遅延リスクの回避

近年全国的に、入札不調や、労務不足・鉄骨等の資材調達難・「働き方改革」に伴う工期遅延が頻発しています。本計画では急激なコスト変動に見舞われにくく、工程の見通しが立てやすい鉄筋コンクリート造の庁舎とします。

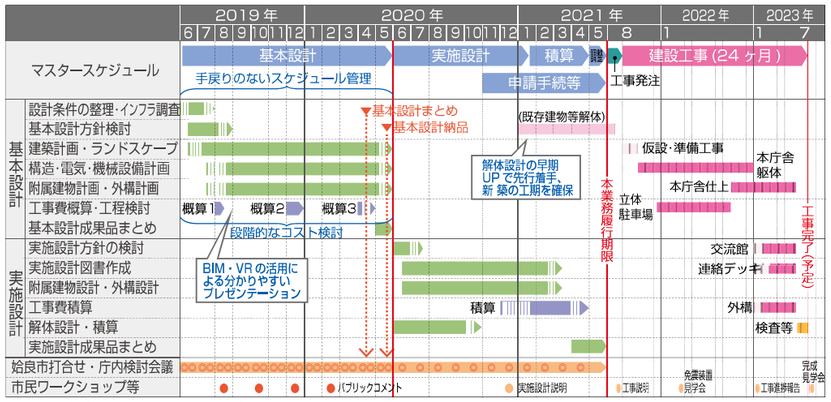

図 11：事業全体のロードマップ